

2013 年度

事業報告書

2013 年 4 月 1 日から
2014 年 3 月 31 日まで

公益社団法人日本麻酔科学会

法人の概要

日本麻酔科学会の大きな使命は、安全で質の高い医療を提供するための事業活動を通して、国民の健康と福祉の増進に寄与することである。本学会はこの使命を達成するため、これまで麻酔科専門医の育成や国民への啓発をはじめとする種々の取り組みを行ってきた。2001年に社団法人に、次いで2011年4月1日に公益社団法人に認定され、本学会の社会貢献の役割が更に明確化されたところである。以下の学会理念をもとに各種事業を行う。

1. 役員 (2014年3月31日現在)

理事長 (代表理事) 外 須美夫 (理事)

常務理事 山田 芳嗣 (理事 (副理事長)) 上村 裕一 (理事) 齋藤 繁 (理事)
西脇 公俊 (理事) 工藤 一大 (理事 (事務局長))

理 事 有村 敏明 上山 博史 尾崎 眞 木内 恵子 齋藤 洋司
坂本 篤裕 白石 義人 須加原 一博 鈴木 健二 鈴木 利保
住田 臣造 中尾 慎一 廣田 和美 横山 正尚

監 事 森田 潔 古家 仁

2. 代議員 277名 (2014年3月31日現在)

青江 知彦	赤田 信二	赤塚 正文	足立 健彦	天谷 文昌	有村 敏明	安藤 富男
飯田 宏樹	五十嵐 孝	石川 岳彦	石田 和慶	出田 眞一郎	五十洲 剛	磯野 史朗
市川 敬太	一瀬 廣道	稲垣 喜三	稲田 英一	猪股 伸一	伊波 寛	伊良波 浩
岩崎 寛	岩瀬 良範	岩波 悦勝	上山 博史	牛島 一男	内野 博之	梅垣 修
梅田 英一郎	江崎 公明	大久保 和章	大下 修造	大島 正行	大瀬戸 清茂	太田 宗一郎
太田 助十郎	大塚 直樹	大西 佳彦	大平 直子	近江 明文	岡 龍弘	岡本 浩嗣
岡安 理司	於川 勝美	小川 賢一	奥田 泰久	奥谷 龍	奥富 俊之	小倉 信
尾崎 眞	小澤 章子	忍田 純哉	小野 和身	小幡 英章	甲斐 哲也	貝沼 関志
香川 哲郎	垣内 英樹	風間 富栄	榎本 温	門井 雄司	加藤 孝澄	上農 喜朗
狩谷 伸享	川上 浩文	川口 昌彦	川崎 孝一	川崎 貴士	川股 知之	川真田 樹人
川村 隆枝	河本 昌志	管 桂一	上村 裕一	北浦 道夫	北口 勝康	北村 晶
木内 恵子	木下 博之	金 徹	木村 信行	櫛方 哲也	工藤 一大	国元 文生
倉橋 清泰	黒澤 伸	小坂橋 俊哉	小出 康弘	後藤 隆久	小林 俊哉	小林 佳郎
小森 万希子	小山 薫	金 正	近藤 修	最首 俊夫	齋藤 重行	齋藤 繁
齋藤 洋司	境田 康二	坂口 嘉郎	坂本 篤裕	笹野 寛	佐多 竹良	佐藤 重仁
佐藤 淳	佐藤 大三	佐和 貞治	澤村 成史	塩川 泰啓	志賀 達哉	重松 次郎昌幸
重見 研司	設楽 敏朗	清水 淳	下村 俊行	下山 恵美	白石 義人	白神 豪太郎
新宮 興	須加原 一博	杉田 道子	杉本 季久造	杉山 和英	鈴木 健二	鈴木 健雄
鈴木 利保	鈴木 康之	角倉 弘行	住田 臣造	瀬尾 勝弘	瀬川 一	関口 芳弘
瀬戸 倫義	世良田 和幸	芹田 良平	其田 一	祖父江 和哉	多賀 紀一郎	高石 和
高雄 由美子	高崎 康史	高橋 浩	瀧田 恒一	竹内 護	武田 明雄	竹中 元康
田代 雅文	多田 文彦	多田 羅 恒雄	舘田 武志	田中 克哉	田中 誠	田中 源重
谷口 正彦	玉井 久義	中馬 理一郎	津崎 晃一	土田 英昭	恒吉 勇男	坪内 宏樹
坪川 恒久	寺井 岳三	寺嶋 克幸	照井 克生	土井 克史	東藤 義公	遠山 一喜
時岡 宏明	中尾 慎一	長尾 乃婦子	中澤 正和	中澤 弘一	永田 博文	中塚 秀輝
中村 達雄	中村 不二雄	中村 正人	長櫓 巧	新見 能成	西川 精宣	西川 光一
西川 俊昭	西田 修	西村 信哉	西山 友貴	西脇 公俊	野坂 修一	野村 実
萩平 哲	橋口 清明	橋本 悟	馬場 知子	馬場 洋	濱口 眞輔	濱田 宏
林 行雄	肥川 義雄	尾頭 希代子	尾藤 博保	日野原 宏	平川 奈緒美	廣田 和美
広田 喜一	福崎 誠	福重 哲志	福田 和彦	福田 悟	藤井 ひとみ	藤田 喜久
藤村 直幸	藤原 祥裕	古家 仁	外 須美夫	堀口 剛	前川 信博	前原 康宏
槇田 浩史	槇田 徹次	松井 秀明	松川 周	松川 隆	松永 明	松本 晶平
松本 富吉	松本 美志也	松本 睦子	眞鍋 治彦	間渕 則文	間宮 敬子	水野 圭一郎
水本 一弘	溝渕 知司	溝部 俊樹	光畑 裕正	南 敏明	宮澤 典子	宮部 雅幸

村尾 浩平	村川 雅洋	室園 美智博	森 隆	森 美也子	森崎 浩	森田 潔
森松 博史	森本 裕二	森山 潔	森脇 克行	諸岡 浩明	安田 誠一	山内 正憲
山浦 健	山蔭 道明	山口 重樹	山崎 隆史	山崎 光章	山田 光輝	山田 達也
山田 徳洪	山田 芳嗣	山本 健	山本 達郎	横井 雅一	横田 美幸	横野 諭
横山 正尚	吉川 大輔	吉田 仁	米井 昭智	萬 知子	萬家 俊博	渡邊 昭彦
渡邊 至	渡邊 啓介	渡辺 裕生	渡辺 博			

3. 事業の概要

本学会は、以下の理念を掲げ事業を行っている。

公益社団法人日本麻酔科学会（以下、本学会という）は、周術期の患者管理を中心としながら、救急医療、集中治療、疼痛管理、緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で安心できる医療を提供する。

1. 質の高い麻酔科医の育成

質の高い麻酔科医とは、周術期管理、侵襲制御、疼痛管理等において優れた知識と技術、およびコミュニケーション能力を有し、チーム医療を中心的に担える者である。本学会は知識や技術、能力を習得するためソフト面およびハード面を整備し、次世代の日本の医療を十分に担う質の高い麻酔科医を多く育成する。

2. 先進的研究の推進と新たな医療技術の創成

医療において人類の幸福に役立つ新しい知見や技術の創成が重要である。本学会はそのような研究を支援し、得られた発見（知見）や技術、情報を社会に提供する。

3. 麻酔科医療の啓発

国民が安全で安心できる医療を受けるには、国民に対し麻酔科医療に関する正しい知識や認識を提供する必要がある。本学会は広報活動や日常の診療を通じて国民に麻酔科医が担う医療の役割や重要性を啓発し、その認識を普及させる。また、医学生や研修医に対しても麻酔科関連医療の重要性を啓発し、麻酔科専門医の拡充を図る。

4. 他領域との協働

患者中心の安全で質の高い医療を供給するために、本学会は他科の医師や看護師、薬剤師、臨床工学技士などのコメディカルと真のチーム医療として周術期管理チームを組織し、それを実践する基盤を確立する。

5. 国際的な医療連携への貢献

麻酔関連領域における国際的医療水準を高めることは重要である。本学会は世界各国との連携のもとに国際的な医療人の育成や組織作りを推進する。世界麻酔科学会（WFSA）及びアジア・オーストラレーシア地区（AARS）の一員として、とくにアジア地域と人材および知識交流に努める。

4. 事業の区分

理念に基づく事業区分を公益法人申請にあたり、以下の通りとした。

（1）公益目的事業

公1 麻酔科学の新たな発展のために国内外の先端的研究を奨励・推進・支援し、あわせて国内外の関連学術団体をはじめ関係方面と研究・協力をを行い、もって新しい技術と正しい知識の普及・啓発を図り、その成果を社会に還元する事業（**学術事業・交流事業**）

公2 会員が専門的知識や技術を習得するために、研修及び麻酔科関連業務に関わる医師及び施設の審査・認定を実施し、あわせて麻酔科関連医療に関わる調査および研究の推進を図り、特に麻酔科関連の事故症例の検証により再発防止に努め、もって社会に安全で良質な医療を提供するための事業（**教育事業・安全事業**）

公3 一般市民が安全で安心できる医療を受けるために、医療に関する正しい知識や認識の向上を図り、さらに麻酔科医が担う医療の役割や重要性を啓発し、普及させる事業（公益事業）

(2) 収益事業等

収1 医師賠償責任保険の加入仲介事業

収2 展示出展事業

5. 社員総会・理事会報告

第1回 理事会

1. 日 時：2013年4月27日（土） 11：00～14：30
2. 場 所：日本麻酔科学会 神戸事務局
3. 理 事：19名 監事：3名
4. 出席者：理事16名 監事3名

第3回 定時社員総会

1. 日 時：2013年5月22日（水） 14：00～16：00
2. 場 所：札幌市教育文化会館 大ホール
3. 社員数：285名
4. 理事現在数：19名
5. 理事出席者数：19名
6. 出席者数：269名（うち委任状37，議決権行使書41）

第2回 理事会

1. 日 時：2013年8月23日（金） 13：00～17：00
2. 場 所：日本麻酔科学会 神戸事務局
3. 理 事：20名 監事：2名
4. 出席者：理事18名 監事2名

第3回 理事会

1. 日 時：2013年11月29日（金） 13：30～16：30
2. 場 所：日本麻酔科学会 神戸事務局
3. 理 事：20名 監事：2名
4. 出席者：理事18名 監事1名

第4回 理事会

1. 日 時：2014年3月28日（金） 13：00～17：00
2. 場 所：日本麻酔科学会 神戸事務局
3. 理 事：20名 監事：2名
4. 出席者：理事18名 監事2名

6. 事業報告

事業区分にある公益目的事業公1，公2，公3にある事業を組織運営上，委員会に割り振り運営を行っている。

公1は，学術事業，交流事業であり担当委員会は，以下の通りである。

- ・学術委員会
- ・国際交流委員会
- ・関連領域検討委員会

公2は，教育事業，安全事業であり担当委員会は以下の通りである。

- ・教育委員会
- ・安全委員会
- ・救急心肺蘇生検討委員会

公3は、公益事業であり担当委員会は以下の通りである。

- ・広報委員会
- ・麻酔博物館事業検討委員会

また、管理運営部門として以下の組織を置いている。

- ・総務委員会
- ・財務委員会
- ・倫理委員会
- ・事務局

各委員会の委員長は理事とし、統括として常務理事をおいて運営を行った。以下に各委員会の事業報告の概要を記す。

(1) 公益目的事業

●公1

1) 学術委員会 (委員長：山田理事)

【業務内容】

学術委員会は学術事業を担当する。「国内外の先進的研究を奨励・推進・支援し、あわせて国内外の関連学術団体をはじめ関係方面と連携し、新しい技術と正しい知識の普及・啓発を図り、その成果を社会(国民)へ還元する」ことを事業目的とし、中期および短期計画を立案し、その実行にあたる。学術事業戦略は、大きく A. 学術集会運営、B. 機関誌、準機関誌の発行、C. 学術研究の奨励、支援に分けられる。

【2013年度報告】

2013年度は、支部・年次学術集会に関する事項の検討、2014年度学会賞の応募・審査、JA Clinical Report創刊に関する検討、機関誌の編集に関する規定作成、日本麻酔科学会主導の臨床研究についての検討、学会出版物の著作権に関する検討等を行った。

★ 委員会回数3回(7月24日、12月2日、1月29日)

A. 学術集会運営

・第60回学術集会

日程：2013年5月23日(木)～25日(土)

場所：ロイトン札幌、ホテル札幌芸文館、札幌市教育文化会館、札幌プリンスホテル(国際館パミール)

会長：岩崎 寛

参加者：7533名

テーマ：「今一度、知識に知恵を加えて社会貢献を考える」

※会長企画・講演やシンポジウム=12題、招待講演=13題、招請講演=9題、シンポジウム=17題、PBLD=4題、ワークショップ=1題、委員会企画=8題。

一般演題は1496題の応募があり、学術集会企画専門部会で採否検討をした結果、採択演題数は1092題、不採択は404題、採択率73%となった。領域毎で優秀演題等のセッションを実施し、採択演題の内訳は優秀演題が83題、ポスターディスカッション315題、ポスター694題であった。

・支部の学術集会(各支部で合計6回)

北海道・東北支部第3回学術集会(会長：山内 正憲)

2013年9月14日(土) 於：仙台市情報産業プラザ

関東甲信越・東京支部第53回合同学術集会(会長：田上 恵)

2013年9月7日(土) 於：京王プラザホテル

東海・北陸支部第11回学術集会(会長：飯田 宏樹)

2013年9月14日(土) 於：じゅうろくプラザ

第59回関西支部学術集会(会長：立川 茂樹)

2013年9月7日(土) 於：大阪国際会議場

中国・四国支部第50回学術集会(会長：白神 豪太郎)

2013年9月14日(土) 於：サンポートホール高松

九州麻酔科学会第51回大会(会長：山本 達郎)

2013年9月7日(土) 於：くまもと森都心プラザ

B. 機関誌・準機関誌の発行，査読編集

・機関誌

「Journal of Anesthesia」誌を隔月刊で6号（Vol. 27-No. 2～Vol. 28-No. 1），約12700部発刊し，会員，官公庁，研究者，国内外の関連する学術団体等に頒布した．同誌はインターネットを媒体として情報を閲覧できるオンラインシステムを構築しており，このシステム上では，より最新の論文を閲覧できる環境を整えている．なお，会員は無料で閲覧可能である．

・準機関誌

「麻酔」誌を月間で12号（Vol. 62-No. 4～Vol. 63-No. 3）発行した．

・学術集会プログラム

公益社団法人日本麻酔科学会第60回学術集会プログラムを発行した．抄録に関しては，会員専用ホームページへ掲載し，プログラム・抄録の閲覧可能な携帯情報端末用アプリを開発した．

C. 学術研究の奨励，支援

・研究奨励・支援事業

世界麻酔科学会連合アジア・オーストラレーシア支部に委員を派遣し，加盟諸国と連携し，国際的な研究交流を行った．

・研究業績等の表彰（研究表彰事業）

2013年度学会賞5賞のうち3賞（山村記念賞・若手奨励賞・社会賞（該当者なし）松木賞・青洲賞（該当者なし））の表彰及び記念講演を行った．2014年度学会賞5賞を募集し，受賞者の選考を行った．また，年次学術集会及び支部学術集会でも最優秀となる演題の選考を行った．

公益社団法人日本麻酔科学会学会賞5賞（山村記念賞・青洲賞・若手奨励賞・社会賞・松木賞）の2014年度受賞予定者の選考を行い，以下のとおり決定した．

①山村記念賞

天谷 文昌（京都府立医科大学 麻酔科学教室）

痛覚過敏の発症に関わる一次知覚神経の痛覚伝達機構の解析

②青洲賞 該当なし

③松木賞

奥富 俊之（北里大学病院総合周産期母子医療センター産科麻酔部門）

我が国の昭和，大正時代における無痛分娩について

④若手奨励賞

（基礎）

木村 雅文（大阪市立大学大学院医学研究科 麻酔科学）

Relief of Hypersensitivity after Nerve Injury from Systemic Donepezil Involves Spinal Cholinergic and γ -Aminobutyric Acid Mechanisms

高榎 由美子（防衛医科大学校 麻酔学講座）

Neonatal exposure to sevoflurane in mice causes deficits in maternal behavior later in adulthood

（臨床）

末廣 浩一（大阪市立大学大学院医学研究科 麻酔科学）

Systemic Vascular Resistance Has an Impact on the Reliability of the Vigileo-FloTrac System in Measuring Cardiac Output and Tracking Cardiac Output Changes

⑤社会賞 該当なし

2) 国際交流委員会（委員長：横山理事，担当常務理事：工藤理事）

【業務内容】

国際交流委員会は「国際的医療連携への貢献」に関連する交流事業戦略の国際交流部門を担当し，その中期および短期計画を立案，実行にあたる．

【2013年度報告】

2013年度は，東アジア麻酔科学会について検討，海外留学生受入事業の実施および次年度計画，

Pacific Refresher Course への講師派遣，第 60 回学術集会での国際交流委員会企画「君にもできる海外医療協力 part3－世界各地からの報告－」実施，第 61 回学術集会開催時の国際交流委員会企画検討，ガイドラインの英訳，AARS 総会へ委員派遣等を行った。

★ 委員会回数 2 回（7 月 5 日，8 月 23 日）

・WFSA（世界麻酔学会連合）

理事および各種委員会委員を派遣した。

・WFSA アジア・オーストラレーシア支部（AARS）

Treasurer として，本学会会員である稲田英一氏，大嶽浩司氏を派遣した。

・外麻酔科学会との連携

海外からの留学生受入事業を実施，以下の 6 名の受け入れ研修を行い，各留学生の受け入れ施設を募集した。

氏名	国名	受入施設	主な研修内容	受入れ期間
Ashish Ghimire	Nepal	愛知医科大学	超音波ガイドによる神経ブロック実習・研究	2013 年 9 月 1 日 ～11 月 28 日
Traychit Chanthasiri	Laos	岡山大学	小児心臓麻酔の研修	2013 年 6 月 1 日 ～8 月 28 日
Emmanuel Prudente	Philippines	北里大学	産科麻酔の研修	2013 年 6 月 10 日 ～7 月 31 日
Win Win Mar	Myanmar	東京女子医科大学	全科麻酔の研修	2013 年 10 月 17 日 ～12 月 1 日
Bunthea Nop	Cambodia	横浜医療センター	集中治療，臨床麻酔の研修	2013 年 8 月 1 日 ～9 月 30 日
Kartika Balaji Samala	India	札幌医科大学	心臓血管麻酔，区域麻酔，呼吸器外科麻酔，ペインクリニック，集中治療，小児麻酔の研修	2013 年 7 月 2 日 ～9 月 26 日

3) 関連領域検討委員会(委員長：工藤理事)

【業務内容】

関連領域検討委員会は、「他領域と協働する医療」に関連する交流事業戦略の関連領域部門を担当し，その中期および短期計画を立案，実行にあたる。活動範囲は，集中治療，疼痛治療，緩和医療など麻酔科関連領域部門との関わりについての検討である。

【2013 年度報告】

2013 年度は，第 61 回学術集会関連領域検討委員会企画について検討，緩和ケアチームにおける麻酔科医の勤務状況現状調査アンケートを実施した。

★ 委員会回数 1 回（5 月 24 日）

●公 2

1) 教育委員会(委員長：上村理事)

【業務内容】

教育委員会は教育事業を担当する。学会理念の 1 項に掲げる「質の高い麻酔科医の育成」のため，認定医・専門医・指導制度および認定病院など教育機関の充実を図る。専門医，指導医および認定施設の認定および更新の審査は明確な基準を設けてこれを行う。高度な知識，判断力，技術を向上，維持するための研修や自己学習の機会を提供する環境を整備する。

【2013 年度報告】

2013 年度は，各種資格の認定審査，新認定制度の検討，2013 年度・2014 年度リフレッシャーコースの検討，教育ガイドライン改訂についての検討，サブスペシャリティ領域学会の検討，認定審査委員会関連審議等を行った。

★ 委員会回数 2 回（6 月 27 日，1 月 16 日）

・教育プログラム等の策定

麻酔科医の生涯教育としての段階的目標を掲げ，その達成のための再教育プログラムの提供を行い，それによって均質な医療水準の維持と普及をはかる。2014 年度に新たな専門医制度を施行するために，

2013年度は、前年度に引き続き認定医、専門医、指導医、病院の認定制度見直しの検討を行い、麻酔科専門医研修プログラム整備指針、研修プログラムモデル例を作成し、公開した。

・麻酔業務に関わる医師、施設の審査・認定

所定の細則に則り下記資格ならびに施設を認定した。

①認定医等の新規認定、資格試験の実施

2013年度は、2013年4月・7月・10月・2014年1月の計4回認定審査を行い、2013年度新規認定医審査合格者数は468名となった。

第1回申請者：223名	合格者：223名	(2013年4月1日認定)
第2回申請者：22名	合格者：19名	(2013年7月1日認定)
第3回申請者：98名	合格者：98名	(2013年10月1日認定)
第4回申請者：122名	合格者：122名	(2014年1月1日認定)

認定医再認定審査は上記新規認定医審査と同時にを行い、合格者は6名となった。

第1回申請者：1名	合格者：1名	(2013年4月1日認定)
第2回申請者：2名	合格者：2名	(2013年7月1日認定)
第3回申請者：2名	合格者：2名	(2013年10月1日認定)
第4回申請者：1名	合格者：1名	(2014年1月1日認定)

②新規専門医

2013年9月22日・10月4日・5日・6日、第52回麻酔科専門医認定試験が実施された。

9月22日：筆記試験（会場：TOC有明・神戸ポートピアホテル）

10月4日・5日・6日：口頭試験・実技試験（会場：神戸ポートピアホテル）

受験者総数：548名

新規認定専門医（3科目合格者）数：423名

筆記受験者数：468名 合格者：418名 合格率：89.3%

口頭受験者数：470名 合格者：383名 合格率：81.5%

実技受験者数：455名 合格者：423名 合格率：93.0%

③新規指導医

2013年11月12日、2013年度麻酔科指導医新規認定の審査会が開催された。麻酔科指導医新規認定者は102名となった。

④新規認定病院

2013年度は、4回認定審査を行い、2013年度新規認定病院数は47施設となった。

第1回申請施設：6施設 合格施設：6施設（2013年4月1日認定）

第2回申請施設：19施設 合格施設：18施設（2013年7月1日認定）

第3回申請施設：11施設 合格施設：10施設（2013年10月1日認定）

第4回申請施設：13施設 合格施設：13施設（2014年1月1日認定）

⑤認定医等の資格更新審査

2013年12月16日、2013年度麻酔科指導医更新者の審査会が開催され、麻酔科指導医更新者は175名となった。2014年1月20日、2013年度麻酔科専門医更新者の審査会が開催され、麻酔科専門医更新者は305名（2014年3月31日時点）となった。また2014年2月7日麻酔科認定医更新申請者の審査会が開催され、認定医更新者は130名（2014年3月31日時点）となった。

指導医更新者：175名 暫定指導医認定：7名

専門医更新者：305名 暫定専門医認定：21名

認定医更新者：130名 暫定認定医認定：6名

⑥認定病院更新

麻酔科認定病院更新申請施設 133施設（内、131施設の認定）

・生涯教育・研修

質の高い麻酔科医の育成のため、周術期管理、救急・集中医療、ペインクリニック、緩和医療等、危機管理、最新のトピックスについての新しい知識の定着を目的とした教育講座を開催している。現在までに計12回の開催実績があり、受講者は1回につき1000名を超えている。従来は麻酔科専門医試験受

験者を対象とした内容であったが、2011年度からは麻酔科専門医取得済みの麻酔科医も対象とし、開催コース数を拡大している。2013年度は計41コース開催した。

・教育普及

麻酔科関連医療が十分普及していない諸外国において、教育講座等を開催し、周術期（手術前・中・後）の麻酔科業務について協働する医療従事者の教育を行い、その成果を当該国の社会に還元している。

また、チーム医療推進のために看護師、薬剤師、臨床工学技士を対象としたセミナーの開催、周術期における手術室業務全般に関する Self Assessment Test の作成と公開を行った。2013年度は教育内容・方法を具体的に検討するために立ち上げた周術期管理チーム委員会で認定制度の具体的検討、認定準備を進めた。また、蘇生教育として心肺蘇生法を個人・団体に提供できるよう医師、医療従事者の教育と指導者の養成を行い、関西支部においては主として若手医師を対象とした症例検討会を年3回開催した。

2) 安全委員会（委員長：白石理事、担当常務理事：西脇理事）

【業務内容】

安全委員会は、麻酔および周術期医療に必要なリスクマネジメントに関する事項について検討する安全事業戦略を担当する。安全な麻酔の施行に必要な調査および情報収集を行い、さらに質の高い安全な麻酔のためのガイドライン作成やマニュアルの策定を主導する。安全事業戦略は、大きく4つの部門、統計調査・情報収集部門、麻酔関連機器部門、薬剤および麻酔手技部門、リスクマネジメント部門に分けられる。

【2013年度報告】

2013年度は、各種ガイドライン、指針の改訂・作成・検討、各種調査の実施、麻酔機器不具合・薬剤情報対応についての検討、委員派遣の検討、その他審議事項についての検討、団体医師賠償責任保険案内の送付等を行った。

★ 委員会回数5回（5月25日、7月15日、10月11日、11月2日、2月28日）

・麻酔科関連医療の安全性の担保（医療事故再発防止事業）

医療事故再発防止のため、麻酔科関連分野に関わる事故が発生した際、速やかに検証を行い、適宜、対応について検討している。麻酔関連医療機器及び器具の故障情報について、会員および企業から得た情報に関し、企業にヒアリングを行い、使用上の注意喚起を会員向けニューズレター及びホームページに掲載した。搬送時に使用する小型酸素ボンベと二酸化炭素ボンベの誤認事故防止対策については、日本医療ガス学会、日本産業・医療ガス学会医療ガスと合同で、事故防止に関する提言を作成し、公開した。

・麻酔関連偶発症例調査

偶発症例調査2013（2013.1.1～2013.12.31）：麻酔科認定病院1258施設を対象に行った。調査結果は2014年に解析を行い、公表予定である。

・麻酔関連機器故障情報調査

麻酔関連機器で故障が発生した場合、あるいは規格自体に問題がある機器に関して常時窓口を設け、ホームページを通じて常に情報を収集し、即時にフィードバックした。

・麻酔薬および関連薬品等の適正使用に関する調査

麻酔薬及び麻酔関連薬ガイドライン第3版の改訂を行った。

・Closed Claims Project の推進と研究

団体契約を結んでいる保険会社から得たデータを分析し、予防策を普及した。普及策として、2013年度版の『医療紛争ゼロを目指して』という冊子を作成し、配布した。

・周術期肺血栓塞栓症発症例調査

わが国における周術期肺血栓塞栓症の発生状況、予防法、治療法等に関して現状を把握するために、日本麻酔科学会認定病院1258施設において、2013年の周術期肺血栓塞栓症に関するアンケート調査を行なった。

・麻酔科医の適正配置（マンパワー適正化事業）

一般市民が等しく質の高い医療をうけられるように麻酔科医の適正配置に努める。2013年度は2010年度に実施したアンケート内容を改善し、本学会認定病院、DPC施設を含む5109施設にアンケートを送付

し、集計を行った。

3) 救急心肺蘇生法検討委員会 (委員長：有村理事, 担当常務理事：工藤理事)

【業務内容】

救急心肺蘇生法委員会は麻酔科の関連領域分野として、教育の充実をはかり、学術的には、ILCOR (イルコア) JRC (国際蘇生連絡協議会) との交流を通して、日本の蘇生学の発展に寄与する。

【2013 年度報告】

2013 年度は、ECC 講習会支部担当責任者部会での日本麻酔科学会及び地域トレーニングサイトでの開催状況の確認、専門医新規申請 ACLS 必須化後の検証アンケート実施の検討等を行った。

★ 委員会開催実績なし

●公 3

1) 広報委員会 (委員長：坂本理事, 担当常務理事：上村理事)

【業務内容】

広報委員会は公益社団法人としての本学会の目的を念頭に置き、本学会の活動を広く社会及び本学会会員に広報する普及啓発事業戦略を担当する。本学会の社会的活動の推進を図ることを目的に中期及び短期計画を立案し、その実行に当たる。活動の対象は一般社会、各種マスコミ、会員、臨床研修医、医学生、及び関係各省庁に分けられる。

【2013 年度報告】

2013 年度は、麻酔のしおり改定、広報ツール作成についての検討、新聞広告を用いた普及啓発、マスメディア戦略についての検討、2014 年度麻酔の日新聞広告掲載についての検討、第 61 回学術集会医学生・臨床研修医 (初期) 招待企画の実施、研修医向け麻酔科紹介パンフレットの作成についての検討、一般の方・メディアからの問い合わせ対応、ニューズレターの企画・校正・発刊、一般市民、手術を受ける方のための麻酔に関する説明冊子「麻酔のしおり」改定 35 万部印刷 25 万部販売等を行った。

★ 委員会回数 2 回 (8 月 10 日, 3 月 9 日)

・医療全般、医療事故等の相談窓口 (医療に関する相談)

一般市民からの麻酔科関連医療に関する質問を電子メール、文書等で受け付け回答した。

・メディア戦略の検討・実施 (メディア戦略)

取材協力、ニュースリリースの配布などを積極的に実施し、マスメディアを通じて広く社会に麻酔科関連医療を正しく理解してもらうための活動を行った。

・市民への出版物発行 (出版物発行)

一般市民向けにわかりやすく麻酔について解説した「麻酔のしおり」を作成し、2013 年 8 月に内容を改訂し、全国の医療施設に 252,162 部 (2014 年 3 月 31 日時点) 販売した。

・市民へのセミナー、シンポジウム等の開催 (啓発)

一般市民向けの教育講座を開催し、麻酔科関連医療について正しい知識と認識を普及させる。2013 年度は、10 月 13 日の麻酔の日に、麻酔科医の重要性を広報する目的で読売新聞に啓発記事を掲載した。また、「麻酔科医の仕事」「痛みの治療の最前線」と題した市民公開シンポジウムを実施し、正しい麻酔の知識と医療の普及啓発を行った。今日の麻酔関連医療が確立されるまでの歴史的展示物を公開している麻酔博物館は、2013 年度来館者が 1,255 名 (2014 年 3 月 31 日時点) となった。

・公益社団法人日本麻酔科学会ニューズレターを 4 号 (Vol. 21-No. 2~Vol. 22-No. 1) 発行した。

※関西支部：近畿麻酔科医界第 60 号 (8 月)、第 61 号 (2 月) を発行、九州支部：報 37 号を発行

2) 麻酔博物館事業検討委員会 (委員長：木内理事, 担当常務理事：上村理事)

【業務内容】

麻酔博物館は、主に一般社会、会員を対象とした普及啓発事業を担当する。麻酔科学発展の足跡となる資料の収集・保存と、展示による啓発を目的に中期および短期計画を立案し、その実行に当たる。活動の内容は、資料収集・整理・保存、企画運営、広報・交流活動、機器史料展示に分けられる。

【2013 年度報告】

2013 年度は、麻酔科学史国際シンポジウム (ISHA) の開催経緯についての検討、第 61 回学術集会出張展示についての検討、2014 年度麻酔博物館内展示物英文併記対象についての検討、麻酔博物館英語 HP の作成に

についての検討、名誉会員へのインタビュー動画撮影、英文パンフレット作成、書籍・機器寄贈受け入れの実施、所蔵データ登録等を行った。

★ 委員会回数 2 回（8 月 9 日、3 月 9 日）

・今日の医療が確立されるまでの歴史的展示物を公開、最新機器を展示・収蔵。2013 年度は 1,255 名（2014 年 3 月 31 日時点）の来館者があった。

（2）管理運営部門

1）総務委員会（委員長：齋藤理事）

【業務内容】

学会理念達成のため、麻酔科診療発展・医療貢献事業戦略、社会保険における麻酔科診療の評価の見直しおよび麻酔科医の労働環境の改善・整備に関する事業戦略を担当し、学会組織に係わる事項、すなわち組織運営に関する事項、会則検討に関する事項を担当する。

【2013 年度報告】

2013 年度は、麻酔科医適正配置部会では必要な学会データの検討、会則検討部会では会則の検討、社会保険部会では平成 26 年度診療報酬改定要望への取り組みを主として活動した。看護師のための周術期管理チーム認定制度と併せて、将来的に臨床工学技士、薬剤師認定を視野に入れた検討と外部交渉、看護師による厚生労働省医行為分類案についての検討、2014 年度名誉会員候補者の選考についても検討した。

★ 委員会開催回数 1 回（3 月 1 日）

2）財務委員会（委員長：西脇理事）

【業務内容】

学会理念達成のための事業計画遂行には、学会の財務基盤の長期的安定が必須である。財務委員会は適切な事業計画作成を可能とするために、過去の予算案、決算書、財務管理の実績と現状分析、および将来的予測から、正確な資金計画をたてる。学会の円滑な業務執行を可能にするために、健全な財務状況を維持するような計画を立案する。

【2013 年度報告】

2013 年度は、2012 年度決算報告ならびに 2013 年予算の補正検討、2013 年度各月の月締め決算検討、第 60 回学術集会決算関連について検討、2014 年度予算案について検討、中長期財務計画について検討、2013 年度暫定決算・資産についての検討等を行った。

★ 委員会開催回数 8 回（4 月 18 日、6 月 24 日、8 月 19 日、10 月 23 日、11 月 25 日、1 月 22 日、2 月 24 日、3 月 24 日）

3）倫理委員会（委員長：鈴木利保理事、担当常務理事：齋藤繁理事）

【業務内容】

倫理委員会は、学会理念に基づく事業を遂行する上で問題となる倫理的事項について検討する。学会や会員に関わる倫理的問題が生じた場合、その処分を含む対応について検討する

【2013 年度報告】

2013 年度は、アンケートの倫理審査申請書 7 件（第 60 回学術集会・第 12 回リフレッシュコース参加者アンケート、麻酔科専門医受験者に対する ACLS アンケート、偶発症例調査 2013、周術期肺血栓塞栓症発症例調査 2013、麻酔科医のマンパワーに関する病院調査、麻酔科医の勤務状況現況調査アンケート（関連領域）医療用二酸化炭素ボンベの使用状況に関するアンケート）の審査、対応を行った。

学会が実施する調査および研究について、立案した各委員会からの申請に基づき、倫理的問題の有無について審査した。また、研究倫理に関し、臨床研究の倫理指針およびヘルシンキ宣言の遵守を会員に周知するとともに、研究活動不正行為への対応窓口を設置した。

★ 委員会回数 1 回（8 月 2 日）

・調査特別委員会の設置

学会の名誉および社会的信用に影響を及ぼすおそれがある行為をなしたと疑いのある会員の行為 3 件について、それぞれ調査特別委員会を設置し、その事実の有無、内容、程度、状況等を調査した。

4）事務局（事務局長：工藤理事）

定款に本学会の事務を処理するために事務局を設置する、と規定されるとともに、事務局長は理事の中から理事会が選任すること、事務長及び所要の職員を置くこと、と規定されている。

【2013 年度報告】

2013 年度は、2012 年度事業報告について検討、会則変更・情報関連方針取り決めについて検討、事務局内部審議事項について検討、学会システムについて検討、2013 年度事業報告、2014 年度事業計画作成について検討等を実施した。

★ 会議開催回数 7 回（4 月 19 日、7 月 5 日、8 月 20 日、10 月 17 日、11 月 26 日、1 月 31 日、3 月 19 日） ※メールによる持ち回り審議 2 回

・事業計画、事業報告の精査

各事業から提出された事業報告書の確認を行い、運営が適正に行われたか否かを確認し、活動実績に応じて委員会の統廃合を行った。

・システムの開発

会員情報の精度を上げるため、総合システムを 2008 年度から順次導入している。今年度は主に抄録登録機能を変更し、継続して会員の利便性向と事務局の作業効率化を目指し、既存システムの改修を行った。また、セキュリティーポリシーの策定や現行システムの状況確認、ならびに在り方についての検討を進めた。

7. 委員会委員・関連諸団体委員等一覧

【会長 1 名・副会長 2 名】

会 長：山 田 芳 嗣
副 会 長：福 田 和 彦
副 会 長：外 須 美 夫

【事務局】

事 務 局 長：工 藤 一 大
副 事 務 局 長：上 山 博 史
事 務 局：足 立 健 彦 多 田 恵 一 増 田 純 一
神戸事務局
東京事務所

<常置委員会>

【総務委員会】担当常務理事：齋 藤 繁
委 員 長：齋 藤 繁
副 委 員 長：有 村 敏 明
副 委 員 長：尾 崎 眞
委 員：落 合 亮 一 中 塚 秀 輝 瀬 尾 勝 弘

[社会保険部会]

部 会 長：落 合 亮 一
部 会 員：田 上 恵 浩 有 村 敏 明 岩 瀬 良 範 横 田 美 幸
森 崎 浩

[会則検討部会]

部 会 長：齋 藤 繁
部 会 員：河 本 昌 志 鎮 西 美 栄 子 前 原 康 宏

[麻酔科医適正配置部会]

部 会 長：中 塚 秀 輝
部 会 員：松 本 美 志 也 榎 方 哲 也 川 股 知 之 加 藤 啓 一
稲 垣 喜 三

【財務委員会】担当常務理事：西 脇 公 俊

委 員 長：西 脇 公 俊
副 委 員 長：足 立 健 彦

委員: 稲田英一 森崎 浩

【学術委員会】担当常務理事: 山田芳嗣

委員長: 山田芳嗣

副委員長: 廣田和美

委員: 榎田浩史 高雄由美子 浅井 隆 垣花 学

川真田樹人 土田英昭

オブザーバー: 齊藤洋司

[機関誌専門部会]

部会長: 廣田和美

部会員: 磯野史朗 上村裕一 新宮興生 土田英昭

橋本悟 齋藤 繁 照井克生 市瀬 史

[Journal of Anesthesia Editorial Board]

Editor-in-Chief: 廣田和美

Section Editor: 山蔭道明 川口昌彦 角倉弘行 山本達郎

垣花 学 浅井 隆 齋藤 繁 蔵谷紀文

井上 莊一郎 竹田晋浩 小田 裕

【学術集会実行委員会】担当常務理事: 山田芳嗣

委員長: 山田芳嗣

委員: 福田和彦 齊藤洋司 河本昌志 土田英昭

垣花泰之 上村裕一 金信秀人 浅井隆史

中尾慎一 上園晶一 川真田樹人 森松博史

中塚秀輝 佐和貞治

オブザーバー: 森崎 浩

◆ 循環ワーキンググループ

WG 長: 金 信秀

メンバー: 林 行雄 畠山 登 岡本浩嗣 国沢卓之

石田和慶

◆ 呼吸ワーキンググループ

WG 長: 浅井 隆

メンバー: 倉橋清泰 磯野史朗 内田寛治 竹内宗之

花崎元彦

◆ 神経ワーキンググループ

WG 長: 中尾 慎一

メンバー: 森本裕二 櫛方哲也 森 隆 牛島一男

◆ 小児・産科ワーキンググループ

WG 長: 上園 晶一

メンバー: 鈴木康之 照井克生 松田祐典 水口亜紀

山本 信一

◆ ペイン緩和・局所麻酔ワーキンググループ

WG 長: 川真田樹人

メンバー: 横山正尚 山本達郎 住谷昌彦 下山直人

藤原祥裕 廣瀬宗孝 長谷川麻衣子

◆ 救急・ICUワーキンググループ

WG 長: 森松博史

メンバー: 黒田泰弘 垣花泰之 貝沼関志 藤野裕士

祖父江 和 哉

◆ 麻酔科関連ワーキンググループ

W G 長：中 塚 秀 輝
メ ン バ ー：坂 口 嘉 郎 白 神 豪 太 郎 瀬 尾 勝 弘 中 尾 正 和
長 田 理 多 田 羅 恒 雄 鈴 木 孝 浩

◆ 麻酔全般ワーキンググループ

W G 長：佐 和 貞 治
メ ン バ ー：山 蔭 道 明 川 口 昌 彦 西 脇 公 俊 西 川 精 宣
鈴 木 利 保

◆ 「麻酔」編集委員

稲 田 英 一 榎 田 浩 史 浅 井 隆

【教 育 委 員 会】担当常務理事：上 村 裕 一

委 員 長：上 村 裕 一
副 委 員 長：中 尾 慎 一
委 員：内 野 博 之 大 江 容 子 鈴 木 康 之 北 口 勝 康
白 神 豪 太 郎 益 田 律 子 村 川 雅 洋

[認定制度抜本の見直し専門部会]

部 会 長：村 川 雅 洋
部 会 員：上 村 裕 一 足 立 健 彦 大 江 容 子 鈴 木 利 保
鈴 木 康 之 寺 嶋 克 幸 榎 田 浩 史 森 本 裕 二
オブザーバー：稲 田 英 一

◆ 産科麻酔検討ワーキンググループ

W G 長：奥 富 俊 之
メ ン バ ー：加 藤 里 絵 角 倉 弘 行 照 井 克 生

◆ 小児麻酔検討ワーキンググループ

W G 長：木 内 恵 子
メ ン バ ー：大 畑 淳 香 川 哲 郎 鈴 木 康 之

◆ 心臓麻酔検討ワーキンググループ

W G 長：野 村 実
メ ン バ ー：小 出 康 弘 竹 内 護 山 田 達 也

[第1部会（専門医認定）]

部 会 長：中 尾 慎 一
(専門医認定) 木 内 恵 子 小 板 橋 俊 哉 重 見 研 司 山 口 重 樹

(筆 記 試 験) 白 神 豪 太 郎 岡 本 浩 嗣 川 口 昌 彦 川 真 田 樹 人
坂 口 嘉 郎 佐 和 貞 治 澤 村 成 史 橋 口 さ お り
藤 原 祥 裕 松 本 美 志 也 間 宮 敬 子 山 蔭 道 明
萬 知 子

(口 頭 試 験) 小 板 橋 俊 哉 内 野 博 之 佐 藤 暢 一 鈴 木 康 之
中 澤 弘 一 福 田 妙 子 山 口 重 樹

(実 技 試 験) 中 尾 慎 一 飯 田 宏 樹 牛 島 一 男 中 塚 秀 輝
西 川 精 宣 水 本 一 弘

◆ 試験問題データベース検討ワーキンググループ

W G 長：重 見 研 司

メンバー：津崎晃一 萩平 哲 長田 理

◆ 専門医研修プログラム検討ワーキンググループ

WG 長：大嶽浩司

メンバー：鈴木利保 寺嶋克幸 槇田浩史

オブザーバー：稲田英一

(当日試験官) 足立健彦 石川岳彦 伊吹京秀 上山博史
大嶽浩司 大川塚将秀 伊小川章子 上小北谷木幡英勝 史章
甲斐哲也 方松孝也 桑前迫金幸 合谷木口勝康
木山秀哉 小松美一 坂口嘉登 佐藤健治
小森万希子 瀬川一重 祖父江和哉 高恒吉勇 美子
鈴木孝浩 田中克哉 津崎晃一 樹俊孝 一樹
寺嶋克幸 土井欣也 西脇公宗 悠かり 憲
中塚秀輝 尾頭希代子 廣南 内正 憲
濱田徹次 森松博史 山正尚

[第2部会 (指導医認定)]

部会長：内野博之

部会員：飯田宏樹 寺嶋克幸 益田律子

[第3部会 (認定医, 認定施設認定)]

部会長：北口勝康

部会員：小川幸志 鈴木康之 横山順一郎

【倫理委員会】担当常務理事：齋藤 繁

委員長：鈴木利保

副委員長：鈴木健二

委員：祖父江和哉 野坂修一 世良田和幸

オブザーバー：澄川耕二

【安全委員会】担当常務理事：西脇公俊

委員長：白石義人

副委員長：須加原一博

委員：森松博史 市川高夫 竹内 護 前川信博

[偶発症例 (肺塞栓) 専門部会]

部会長：森松博史

部会員：津崎晃一 中塚秀輝 讚岐美智義 黒岩政之

入田和男

オブザーバー：中村真潮 宮脇卓也

[JSAPIMS 周術期情報システム専門部会]

部会長：須加原一博

部会員：萩平 哲 讚岐美智義 長田 理 澤 智博

オブザーバー：足立健彦

[医薬品適正評価対策専門部会]

部会長：白石義人

部会員：中馬理一郎 奥田泰久 北村 晶 岩崎達雄

◆ 医薬品ガイドライン改定ワーキンググループ

WG 長：竹内 護

メンバー：山 蔭 道 明 奥 田 泰 久 中 尾 正 和 加 藤 孝 澄
齊 藤 洋 司 中 塚 秀 輝 森 松 博 史 稲 田 英 一
奥 富 俊 之 長 櫓 巧 讃 井 將 満

[CCP 専門部会]

部会長：前川 信博

部会員：河本 昌志 横田 美幸

[麻酔器機・麻酔手技安全対策専門部会]

部会長：市川 高夫

部会員：祖父江 和哉 佐和 貞治 萩平 哲

[周術期禁煙ガイドライン検討WG]

部会長：飯田 宏樹

部会員：甲斐 哲也 久利 通興 中川 雅史 森松 博史

[気道確保ガイドライン検討WG]

部会長：市川 高夫

部会員：福田 和彦 磯野 史朗 佐和 貞治 祖父江 和哉
萩平 哲 西脇 公俊

【国際交流委員会】担当常務理事：工藤 一大

委員長：横山 正尚

副委員長：齊藤 洋司

委員：岩崎 寛 中島 芳樹 大嶽 浩司 奥富 俊之
佐和 貞治

オブザーバー：稲田 英一

[英語ホームページリニューアル専門部会]

部会長：佐和 貞治

部会員：釘宮 豊城 大嶽 浩司

【関連領域検討委員会】担当常務理事：工藤 一大

委員長：工藤 一大

副委員長：住田 臣造

委員：月山 淑 長櫓 巧 橋本 悟 稲垣 喜三

[集中治療領域検討部会]

部会長：橋本 悟

部会員：貝沼 関志 内野 博之 山口 修

[ペイン・緩和領域検討部会]

部会長：長櫓 巧

副部長：月山 淑

部会員：細川 豊史 岡本 健一郎 橋口 さおり 服部 政治

【広報委員会】担当常務理事：上村 裕一

委員長：坂本 篤裕

副委員長：上山 博史

委員：稲垣 喜三 国沢 卓之 坪川 恒久 寺嶋 克幸
松本 尚浩

◆ ホームページリニューアルワーキンググループ

W G 長：稲垣喜三
メンバー：黒澤温 坪川恒久

<特別委員会>

【救急・心肺蘇生法検討委員会】担当常務理事：工藤一大
委員長：有村敏明
副委員長：足立健彦
委員：田勢長一郎 谷川攻一 中川隆 清水直樹
谷口巧 武田吉正 野々木宏 坂本哲也
多田恵一

[ECC講習会支部担当責任者部会]

部会長：多田恵一
副部長：田勢長一郎
部会員：今泉均 (北海道) 伊関憲 (東北)
境田康二 (関東甲信越・東京) 間渕則文 (東海北陸)
水本一弘 (関西) 石川雅巳 (中国四国)
漢那朝雄 (九州)

◆ 救急救命士の気管挿管実習の現状と今後を考えるワーキンググループ

W G 長：多田恵一
メンバー：谷川攻一 川前金幸 西脇公俊 森崎浩

【周術期管理チーム委員会】

委員長：落合亮一
委員：足立健彦 稲田英一 近江禎子 大嶽浩司
上村裕一 齋藤繁之 中塚秀輝 森崎浩
オブザーバー：澄川耕二 宮坂勝之 大村昭人

◆ 認定ワーキンググループ

W G 長：森崎浩
メンバー：稲田英一 木山秀哉

◆ テキスト作成ワーキンググループ

W G 長：河本昌志
メンバー：角倉弘行 藤原祥裕 森松博史

◆ セミナーワーキンググループ

W G 長：木山秀哉
メンバー：上山博史 川股知之 中塚秀輝

◆ 試験問題作成ワーキンググループ

W G 長：落合亮一
メンバー：萬知子 長崎剛 田中直文 武藤理香
印南靖志 丹羽康則 近藤一郎 山浦健彦
坊垣昌彦 角山正博 田中聡 石川岳彦

【支部委員会】

委員：鈴木健二 鈴木利保 尾崎眞 西脇公俊
中尾慎一 齊藤洋司 須加原一博

【支部運営委員会】

(北海道・東北支部)

支部長：鈴木健二
総務委員：石川岳彦 黒澤伸 金谷憲明

学術委員：廣田和美 山内正憲 山蔭道明
教育委員：岩崎寛 山村川雅 山西川俊昭 堀口剛
広報委員：五十州剛 高畑 森本裕二 川前金幸

(東京支部)

支部長：尾崎眞
総務委員：坂本篤裕 萬知子 山崎隆史
学術委員：榎田浩史 萬寺嶋克幸 小森万希子
教育委員：上園晶一 寺内野博 小前原康宏
広報委員：横田美幸 森崎 澤村成史

(関東・甲信越支部)

支部長：鈴木利保
総務委員：後藤隆久 岡本浩嗣
学術委員：奥田泰久 田上恵川真田樹人
教育委員：小坂橋俊哉 北村昌生 竹内護齋藤繁
広報委員：松川隆 照井克生 田中誠

(東海・北陸支部)

支部長：西脇公俊
総務委員：山崎光章 佐藤重仁 宮部雅幸 白石義人
学術委員：山岡健 土田英昭 小久保莊太郎 鈴木照
教育委員：藤原祥裕 飯田宏樹 (学術委員兼任)
広報委員：重見研司 祖父江和哉 西田修

(関西支部)

支部長：中尾慎一
総務委員：前川信博
学術委員：立川茂樹 南敏明 横野諭
教育委員：佐和貞治
広報委員：西川精宣
委員：足立健彦 上山博史 木内淳子 木内恵子
福田和彦

(中国・四国支部)

支部長：齊藤洋司
総務委員：稲垣喜三 大下修造 萬家俊博 溝渕知司
学術委員：藤田喜久 大河本昌志 長櫓巧
教育委員：森松博史 濱田宏一 松本美志也 横山正尚
広報委員：藤田喜久 佐倉伸一 白神豪太郎 田中克哉

(九州支部)

支部長：須加原一博
総務委員：外須美夫 有村敏明 野口隆之
学術委員：山本達郎 牛島一男 佐多竹良 上村裕一
教育委員：坂口嘉郎 比嘉和夫
広報委員：恒吉勇男 瀬尾勝弘

【選挙管理委員会】担当常務理事：工藤一大

委員長：多田恵一
委員：増田純一

【麻酔博物館事業検討委員会】担当常務理事：上村裕一
委員長：木内恵子

委員：山本健菊地博達武田純三土手健太郎
牧野洋松木明知
館長：釘宮豊城

【ハラスメント対策室】事務局長：工藤一大
委員長：齋藤繁
委員：木内恵子

【利益相反委員会】担当常務理事：齋藤繁
委員長：榎田浩史
副委員長：鈴木健二
外部委員：顧問 護士

<2013年度関連諸団体委員等一覧>

【日本医師会】
疑義解釈委員会：増田純一

【日本医学会】
評議員：外須美夫
連絡委員：山田芳嗣
医学用語連絡委員：榎田浩史
代委員：浅井隆

【厚生労働省医道審議会標榜医審査会】
審査委員 10名

【社団法人日本専門医制評価・認定機構】
委員：稲田英一

【外科関連学会協議会】
委員：田上恵

【外科系医学会社会保険委員会連合】
処置委員会委員：岩瀬良範
検査委員会委員：土井松幸
実務委員会委員・手術委員会委員：横田美幸
手術委員会（コーディングWG）：澤智博
手術委員会（医療材料・医療機器WG）：土井松幸
麻酔委員会委員：山田芳嗣 田上恵 横田美幸

【日本救急医療財団】
理事：花岡一雄
心肺蘇生法委員会委員：多田恵一

【日本蘇生協議会委員】
委員：多田恵一

【3学会合同呼吸療法士認定委員会】
派遣委員：大村昭人 安本和正 中澤弘一 妙中信之
落合亮一

【日本歯科麻酔学会】
監事：小板橋俊哉

【全国MC協議会連絡会幹事会】

幹 事：多 田 恵 一

【全国医療安全共同行動】

委 員：西 脇 公 俊 (担当常務理事)

【禁煙学術ネットワーク】

委 員：西 脇 公 俊

【World Federation of Societies of Anesthesiologists (WFSA)】

Executive Committee: 稲 田 英 一

○Permanent Committees

Constitution Committee: 大 嶽 浩 司

Publications Committee: 廣 田 和 美

Safety and Quality of Practice Committee: 前 川 信 博

Scientific Affairs Committee: 土 田 英 昭

○Subspecialty Committees

Pain Relief Committee: 長 櫓 巧

○Working Party

Manpower Committee: 山 蔭 道 明

Professional Wellbeing Working Party: 森 田 潔

【Asian and Australasian Regional Section (AARS)】

Treasurer: 稲 田 英 一